

2 ページで理解する 標準薬物治療ファイル 改訂 4 版

編：日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会

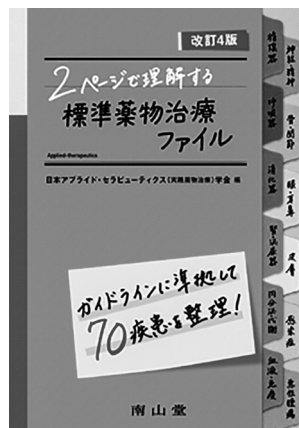
「薬の勉強」に留まらない、 臨床現場で必携の指南書！

本書は 2013 年の初版発行時より、臨床家、医療系学生に良書と認められてきました。その後の 10 年間で多数の薬剤が上市され、また多くの領域で医療環境も変化しました。その結果、本書が根拠とするガイドラインの多くも定期的な改訂が行われてきましたが、本書も遅れることなく対応し続け、第 4 版では取扱疾患も 70 まで増強されました。本書は臨床現場での利用における最新性と信頼性を維持し続けています。

タイトルの通り、疾患ごとに 2 ページで完結するように編集されている本書は、臨床現場で利用しやすく、その特徴により初学者から最前線の医療者まで広く受け入れられてきたことは疑問の余地がありません。多くの疾患・治療について学習しなければならない学生諸君には効率の良い学習補助教材であり、忙しい現場では実務上の確認作業や再学習教材として役立っています。

特筆すべきは、薬剤師・医師が協働して執筆・編集を行っていることです。結果として、標準薬物療法を扱っているにもかかわらず、簡潔に医療の本質を理解でき、薬の勉強に留まっていないのが素晴らしいと思います。具体的には医療人に理解しやすい、カルテ記載と同様の SOAP 形式による構成で統一され、症状、検査所見、診断基準と鑑別診断を含む診断関連、病因、疫学の学習から、薬物治療を含んだ治療全般はもちろん、なんと患者教育に至るまで、診療の順番に則した記載となっており、非常に学習しやすいものとなっています。その内容も、臨床現場での必要事項が網羅され、偏りの少ない構成となっていることは、本当に臨床現場を理解されておられる執筆者と編集者の能力が遺憾なく発揮されていると思います。

偏りが無い、と言っても肝腎の薬物療法の記載は詳細です。たった 2 ページにまとめていると侮ってはいけ



A5 判 / 156 頁

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

発行：南山堂 (2023 年 3 月)

ません。薬剤師の仕事は精緻であることはよく知られるところですが、本書でも薬剤師・医師の協働作業による精緻さが確認でき、薬物療法において必要なことはきちんと網羅されています。それが非常に高い水準での「標準薬物療法の解説」であると言えるのは、先にも書いた通り、治療のゴール、治療と副作用のモニタリング、そして患者教育にまで言及していることから明らかです。

本書は臨床現場での利用はもちろん、症例検討、多職種連携教育など、広い範囲での卒前・卒後教育用の書籍として自信を持ってお勧めできる定番書籍と言えるでしょう。

聖マリアンナ医科大学薬理学 主任教授
聖マリアンナ医科大学病院循環器内科 顧問医／治験管理室 室長
松本 直樹